

# 第85号

2021. 8. 31

(公社)津法人会 青年部会

津市広明町121番地

津税理士会館4階

TEL(059)225-1302

<http://www.tsu-hojinkai.or.jp/seinenbu/index.html>

## 提 言

## 「高齢化社会に向けて」

日本の総人口について、国交省の資料では、2008年の1億2808万人をピークに減少局面を迎えますが、高齢者の人口は2040年まで増え続け、2045年の人口は約1億642万人となり、2060年には8674万人まで減少すると予想されております。また、津市公表の人口は、2020年は約27.3万人ですが2045年には約23.7万人と約14.2%減少すること。

紙面でも、2025年問題（団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる）、2030年問題（国民の約3分の1が高齢者となる）など目につくようになりました。高齢者がマジョリティーとなり、どの国も経験したことがない超高齢化社会を迎える中、事業者にとっては自社従業員を含め高齢化する社会へいかに適応できるかが、今後の行く末を左右すると言っても過言ではない状況です。

では今後の事業活動についてどのように考えればよいのでしょうか。

近頃は人生80年から100年などと言われ、全世帯数に対する単身高齢者世帯の割合は、1985年当時33世帯に1世帯でしたが、2030年には7世帯に1世帯となり、その結果全体の単身世帯数の割合は、3世帯に1世帯まで増える見通しですので、高齢者や一人世帯を意識した商品の開発やサービスのニーズが高まります。このおひとり様世帯へのアプローチの一例として、楽しみ・癒し・健康をキーワードとして、以下の分野についてのニーズがあると考えます。

例えば、消費・自立分野では買い物難民対策としての配食・宅配、サプリメント、ゆったりできる喫茶店、カラオケ、電動アシスト自転車・車いすなど。住宅分野ではリフォーム、介護施設・家

電、生活・家事支援、見守りなど。サービス分野では地域包括サービス、フィットネス、介護タクシー、レジャー、介護旅行、家事代行、ペット関連、シニアの人材派遣、遺品整理など。金融分野では高齢者向け保険商品、リバースモーゲージ、終末準備（遺言、信託、後見制度）、相続サポート、不動産関連など、その他多くの事業分野でのニーズが想定されます。特に超高齢化社会が進むと、日本では金融資産の多くは60歳以上の高齢者が保有しておりますが、相続関連サービスのニーズが拡大基調にあることから、金融分野の重要性が高まります。

高齢者市場はレッドオーシャンとも揶揄されますが、2012年の段階で100兆円あり毎年1兆円以上拡大していると言われております。また、現在の日本の高齢者人口は約3500万人ですが、2030年の世界の高齢者人口は約10億人の見通しであり、高齢化社会への積極的な取り組みは、世界進出への足掛かりとなる可能性もあります。

このように考えると、高齢者市場は、医療や介護関連だけではありません。裾野が広く成長ポテンシャルがあります。コロナ禍で大変な状況ではありますが、自社商品やサービスの応用また関連事業として取り組むこともできるのではないかと思うか。

少々話が大きくなりましたが、企業の目的は顧客創造であり、利益は問題解決した価値の対価です。とかくセンセーショナルな言説や横文字が目立つ昨今ですが、しっかり自身の物差しをもちつつも、時には虫の目、鳥の目、魚の目、蝙蝠の目を意識し、来る高齢化社会に対応したいですね。

## 新部会長からのメッセージ

公益社団法人 津法人会 青年部会 部会長 吉村 成人



この度公益社団法人津法人会青年部会の第21代部会長を拝命致しました、吉村成人でございます。

大役を仰せつかり身の引き締まる思いですがこれも自らを成長させるチャンスと思い、精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願ひ致します。

2年間という限られた任期ではありますが、会員の皆様が青年部会に入って良かったと言つていただける会にしていきたいと思っておりますし、会員の皆様からの進言に耳を傾け新たな事業にもチャレンジして行きたいと思っております。

青年部会の活動の柱である「租税教育活動」「部会員増強」「地域社会貢献活動」がございますが、今年度より「財政健全化のための健康経営プロジェクト」も新たな柱として取組んで参ります。

### まずは「租税教育活動」について

我々は税のオピニオンリーダーとして「租税の理解・望ましい税制・財政のあり方の提言・納税意識の高揚と税知識の普及啓蒙」を図るため「租税教育活動」を大きな柱の一つとして積極的に推進しております。

今年度もすでに津市内の小学校10校（小学6年生）で「租税教室」を開催いたしました。

11月の「税を考える週間」には「租税教育全国行動～今、子供たちに何を伝えられるか～」と題しまして、日本の未来を担う子供たちに税の大切さを教え、税の本質が「思いやりの心」である事を踏まえた上で、子供たちに税の使い道について学んでもらう機会を今般の社会情勢を鑑みながら可能な限り実施して参ります。

### 「部会員増強・会員交流」

青年部会を力強い組織にしていく為には会員増強が必要であります、ただ増やすだけではなく、入って良かったなと思ってもらえる活動をしていかなければなりません。また青年部会会員にもかかわらず、事業に参加されない方もたくさんみえます。そういう方にも青年部会活動の良さを知つていただくことも必要だと思います。今年度よりSNS等で青年部会の活動を発信していく会員数10%増を目標に組織委員会主導にはなりますが、

青年部会一丸となり、本会、女性部会様の協力を得ながら、会員増強に取り組んで行きたいと思っておりますので、皆様ご協力よろしくお願ひ致します。

会員交流に関しましては会員相互間の情報交換・交流は会員自身の幅を広げ、様々な機会を得る場となり、新たな出会いの場であったりします。今般の社会情勢により活動報告会・卒業式も中止となっており交流の場が少なくなっていますが、そのような状況でもできる限りの交流の場を厚生委員会と企画していきたいと思っております。

### 「社会貢献活動」

公益社団法人として本会同様にふさわしい活動が求められております。

地域の皆様のお役に立てる一般公開の研修会も社会情勢を鑑みながら、十分なコロナ対策を行った上で、web開催も併用しながら実施していきます。公益社団法人としての自覚を持ち津法人会青年部会の活動を行ってまいります。

### 「財政健全化のための健康経営プロジェクト」

今年度、全国青年の集い佐賀大会にて「健康経営大賞」プレ大会が行われます。

このプロジェクトは年々増加していく社会保障給付費（2018年121兆円・2025年140兆円・2040年190兆円）なかでも医療費（医療費と介護費）の伸びが大きくなると予想されております。その取り組みとして「青年部会」「会員企業」で「健康経営宣言書」を作成・全法連に提出し個人・企業共に健康経営に取組んで参ります。主な取り組みとして①個人の健康づくり②職場の環境改善③職場のメンタルヘルスケアに取り組むことにより個人の健康寿命の延伸と医療費の削減、そして企業の生産性向上・高齢者の活用による労働力確保・自立した社員の育成と企業イメージ向上を目指すことにより企業の活力向上と税収の増加を目指します。それにより「日本の未来を担う子供たち」の税負担を少しでも減らせるように20年かけて「財政健全化のための健康経営プロジェクト」に取り組んで参ります。

これらの点を基本に、会員の皆様と力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。

皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

## 退任挨拶

公益社団法人 津法人会 青年部会 直前部会長 楠 幸治



津法人会青年部会の部会長の退任にあたり、会員各位に大変ご支援ご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。また、事務局の皆様、諸先輩方、関係各位にも多大なるご支援を賜り、誠にあり

がとうございました。振り返ってみると、亀井直前部会長からバトンを頂いた二年前、「わいわいがやがや、わくわくどきどき、令和の時代に広げよう、令和の輪、三つの輪」というキャッチフレーズで活動をスタートさせて頂きました。「わいわいがやがやの輪（会員同士の積極的な交流）」「わくわくどきどきの輪（非常に有益な研修会・楽しく学べる租税教室）」「津法人会青年部会の輪（会員拡大・健康経営）」を実現すべく、初年度はスタートしましたが、年度半ばに於いて新型コロナ禍の影響により、活動することが非常に困難な状況に陥りました。そのような状況下ではありましたが、青年部会は「租税教育活動」を主として可能な限りの取組を実施して参りました。

「租税教育活動」は昨年、活動開始から10年という節目を迎えたこともあり、本年度からは、また新たなスタートということで対象学年の変更（小学校5年生から小学校6年生へ）を実施し、

より小学校の教育課程に即したものとしました。また、授業内容も一新し、アクティブラーニングの手法を取り入れたことにより、生徒自らがグループディスカッションによって、より効果的に理解を深めることができ、非常に高い評価を頂けました。ソーシャルディスタンスの確保に慎重に対応しつつ、3校で開催することができたことは、今後の活動に対して大きな実績づくりができたと考えます。税制委員会の皆様をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げます。

残念ながら、全国青年の集い島根大会への参加、新年交流会等の交流事業は新型コロナ禍の影響もあり、開催することができませんでした。バトンをつないで頂いた吉村部会長のもと、状況が好転し、以前の様な活動ができますことを切に願う次第です。

最後になりましたが、部会員の皆様方には、満足のいく活動を実施することが叶わず、非常にご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げるとともに、そのような環境下においても、多大なるご理解、ご支援を賜りました津税務署の皆様、本会の皆様、女性部会の皆様、事務局の皆様、会員の皆様に心の底から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

## 7月例会

『コロナ禍でも業績をV字回復する為の、  
コミュニケーション力 スピーチ力講座』

日時：令和3年7月20日(火)

場所：ホテルグリーンパーク津

**講 師 株式会社ドラゴン教育革命 代表取締役社長 坂田 聖一郎 氏**



7月20日、ホテルグリーンパーク津におきまして青年部会7月研修例会を開催しました。

今回は、株式会社ドラゴン教育革命 代表取締役社長 坂田 聖一郎様をお招きして『コロナ禍でも業績をV字回復する為の、コミュニケーション力 スピーチ力講座』と題してご講演いただきました。

コロナ禍の為、参加人数を制限しながらの開催となり、今回はZOOMを活用したハイブリッド形式を初めてとらせて頂きました。

坂田先生は小中学校の教員を12年務められた経験を生かして、実際の授業の様に参加者を飽きさせ

ないように面白おかしく講演していただきました。

講演テーマでもある、コミュニケーションで必要な「聴く力」とは？では実際に参加者に体験させながらの講演により、楽しく学ぶ事が出来たと思います。

今回のようなメンバーも参加しながらの講演は久しぶりで、とても有意義な時間を過ごせたと思います。

お忙しい中、ご講演してくださった坂田先生、設営にご協力いただいた皆様、そしてご参加いただいた会員の皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

# 租税教育活動 津市教育委員会贈呈式

3月11日に、津市教育委員会を訪問し授業中の写真が入ったクリアファイルと、租税教育用冊子を、市内小学6年生に配布していただけるよう、贈呈させていただきました。

今回で、11年目となりましたが、今後も租税教室を継続していただきたいと、御要望をいただきました。より質のたかい租税教室の開催をおこなわなければならぬと、改めて実感しました。



## 青年部会 親睦ゴルフコンペ

日時：令和3年7月13日(火) 場所：西日本セブンスリーゴルフクラブ



コロナ禍において、卒業式や様々な行事も中止になる中で、厚生委員会として卒業生をはじめ、これまでに青年部会活動に関わっていただいた方々でパーティー無しのゴルフコンペを7月13日(火)西日本セブンスリーゴルフクラブにて23名の参加者で開催しました。

当日は季節柄暑い中でしたが、天候には恵まれ、それぞれの組で和気あいあいとゴルフを楽しむことができました。

前半のスコアで集計した結果、新幹事で厚生委員長の株式会社マエケンの前川誠徳さんが42で優勝、スコアは内緒にしておきますが、亀井機工株式会社の亀井隆典さん

がブービー賞でした。

参加していただきました皆様、ありがとうございました。

ゴルフはスコアを競うことももちろん大切ですが、同じ組のメンバーと楽しく回り、また一緒にゴルフがしたいと思われることが一番大切だと感じます。

コロナは未だ収束していませんが、18ホールで集計して、パーティーまで開催できるゴルフコンペが出来る日が来る事を切に願っています。その時には是非多くの皆様で楽しみましょう。

## 租税教育活動報告

### 令和3年度(一学期)の租税教室を終えて

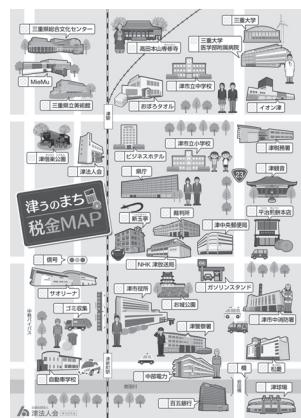
はじめに、租税教室の対応にご協力頂きました、部会長及び税制委員会を初めとした津法人会青年部会の皆様、誠にありがとうございました。おかげ様で無事、10校の租税教室を終えることができました。

今年、租税教室を行って、これまでの租税教室とは大きく異なることがわかりました。これまで秋の実施で残暑がありつつも、比較的涼しい状況だったのですが、今年は6月にもなると、あまりの暑さにシロモチ君を断念せざるを得ないかと思いました。しかし、扇風機付きベストを吉村部会長からご提供頂きまして、かなり改善されました。今後も熱中症対策は必要になるので、よりよい案がございましたら、ぜひお問い合わせくださいと考えております。

また、私自身の反省として、4月に入りまして、租税教室の事前講習を行えていなかったことがあります。今回使用した税金MAPは、答え合わせの解説の部分がある程度アドリブで対応する必要があり、その点をしっかりと準備すべきだったと思っております。二学期以降のどこかでその機会を設けたいと考えております。

租税教室の全体の感想ですが、新型コロナウイルスの影響を感じることなく、児童達の元気な姿を見ることができ、非常にやりがいがありました。リアクションもよく、授業も行い易かったです。また、想定していなかったのですが、六年生ということで、卒業アルバムにシロモチ君との記念写真を使って頂くことができ、喜んで頂けたので、暑さのこともありますですが、できる限り続けていきたいと思っております。

以上、二学期以降も租税教室の依頼は数校ではありますが、実施の機会があると思いますので、引き続きよろしくお願ひ致します。

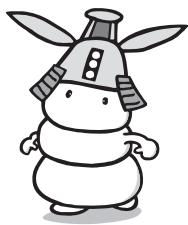


養正小学校

5/10



戸木小学校 5/20



桃園小学校 6/1



香良洲小学校 6/4



片田小学校 6/7



成美小学校 6/14



上野小学校 6/16



大三小学校 6/17



豊が丘小学校 7/12



藤水小学校 7/15



# やっぱり いきいきはげみ! 第35回

## 「バイクはいいぞ！」（第二回）

前回までのあらすじ

- ・筆者Kが友人Sから突然バイクのレース活動に誘われた。
- ・全くの素人なのに、鈴鹿サーキットのミニバイク(125cc)四時間耐久レース(鈴鹿Minimoto四耐)に出場することになってしまった。
- ・Kは25年以上バイクに乗っておらず全く走る気が無いので、チーム監督になった。
- ・急遽ライダーを集めないので、Kの長男(社会人だがモトクロス競技をしている)・長男の友人(ロードバイクの競技をしている)・友人S(一般的な公道ライダー)をライダーとして登録
- ・大会まで一ヶ月を切った状態から準備をはじめ(無謀すぎる...)何とか出場にこぎつけた。
- ・予選はまずまずだったものの、決勝は長男の転倒が響き、100分に渡る修理の後、再びコースに送り出して順調にラップを重ねるも、残念ながら規定周回数に満たずリタイヤ
- ・このままこの悔しさを糧に、活動が盛り上がっていかと思われたが、長男がモトクロスの調子が悪くなつたとかで、二度とサーキットは走らないと連絡してきた。
- ・さて、チームの命運や如何に.....

残念ながら、リタイヤとなってしまった鈴鹿Minimoto四耐の完走に向けて、来年こそは！と意気込んでいた所、長男からの非常に残念な連絡があり、二度とロードレースには出場しないとのこと。さて、監督K(筆者K)は「折角ここまで頑張ったのになあ、これまでかなあ？」と意気消沈しておりましたが、ここで中学二年の三男R(長男の影響でモータースポーツ大好き)が一言「僕が走りたい！」「パパも走つたらええやん」

何と何と、三男Rの一言により、一挙にライダー二名確保です(笑)これは来年に向けて楽しみだぞ！と思ったのも束の間、「本当に走れるんやろか...」と不安と緊張で妙な汗が出てきました。筆者は25年以上もバイクとは無縁の生活を送っており、サーキット走行の経験も全くありません。50歳を迎えた年にサーキット走行？本当に大丈夫やろか？盛り上がるどころか、不安で苦行の様になってきました。引き換え三男Rはバイクに乗れるんじゃないかと非常に嬉しそうにしています。15歳ぐらいになると、あの名曲で歌われておりますように、バイクで走り出したくなるのかもしれません。

三男Rは早速バイクに乗りたいらしく、うずうずしているので、免許の無い三男Rとどの様に練習をしていけば良いのか計画してみました。

- 1.まずは練習用に競技用ミニバイクを準備する。
- 2.舗装された私有地内で8の字を中心に基本練習を行う。
- 3.ライセンスが不要なサーキットで練習走行を行う。

さて、練習用のバイクですが、100cc4ストロー

クエンジンを搭載したNSF100を選択しました。非常に小柄で軽量なバイクですが、ロードレース専用設計だけあって、非常に頑丈で、挙動も非常にシャープです。転倒時でもFRP製のカウルに守られて殆ど影響がありません。一番驚いたのは、ハンドルの切れ角がほとんどないことです。普段の取り回しもかなり苦戦します。バイクに乗られる方は、もし機会がありましたら是非とも一度乗ってみてください。このバイクで8の字を描こうとすると、ブレーキングしながらバイクを倒して、アクセルを開けてバイクを起こす操作が必要となってきます。その動作に合わせてハンドルが勝手に切れていくというコーナリング操作の基礎を学ぶことができます。バイクのコーナリング時の挙動は、直立しているコインがくるくるっと回って倒れていく様子によく例えられますが、まさにその感覚を体験することが出来ます。

さて、三男Rと一緒に8の字練習を開始しましたが、筆者自身は全く倒し込むことすらできず、転倒に次ぐ転倒です。「これは難しいでー！」と三男Rとチェンジしましたが、何と三男R、数分後には膝擦って8の字描いてます！どうして生まれてはじめて乗るのにそれほど出来るの？と聞いてみると、この日のために自転車でイメージトレーニングをずっとしていたとのこと。かくして筆者のプライドはズタズタになり、バイクのことは三男Rに教えてもらうようになったのでした。三男Rは更に肘まで擦って8の字を描くぐらいまで上達してきましたが、筆者も何とか8の字が描ける程度までにはなってきました。

さて、いよいよコースデビューですが、走行に免許、ライセンスが不要なサーキットということで、愛知県の知多にある美浜サーキットをチョイスしました。ちょうど、お正月の時期でしたので、モトクロスをやっている長男がシーズンオフということもあり、指導してもらいました。三男RはNSF100で、筆者KはMinimoto4耐に出場したGROMでのサーキットデビューとなりましたが、三男Rは水を得た魚の様にどんどんタイムを上げて非常に楽しそうに周回を重ねています。それに引き換え筆者は数週で息切れしてはピットインの繰り返し。当時は全くバイクの乗り方がわからず、身体中が緊張で無駄な力が入りまくり、ハンドルに力をかけてしまうような状態でした。これではバイクが寝ていかないで、中々旋回することができず、余計に無駄な力が入ってしまうという繰り返しです。案の定、4回も転倒するという非常に渋いサーキットデビューとなりましたが、大丈夫だろうかという不安よりも、もっと上手くバイクを操りたいという気持ちが上回ってきました。さて、第二回はこの辺で。筆者Kと三男Rの挑戦は第三回へと続きます。

